

学校統合アンケート(教職員) 令和5年2月実施

1 児童の成長や変化について

- ・ 1学期は、竹野南小の児童がみんなの輪の中に入りにくそうにしていたが、今では友だちができたようで楽しそうに過ごしている。
- ・ 学級の人数が増えたことにより、集団で行う活動(体育のゲーム、マラソン大会、学級遊び、合唱、クラス発表など)が活性化されたと思う。授業で多様な考え方に触れ、刺激を受けられる機会が増えたように思う。困っている人を助けようとする子が、統合前より増えた気がする。
- ・ 友だちが固定的な子、特別仲の良い子がいない児童が、友だちの輪を広げている。
- ・ 運動会やマラソン大会でライバル心を持って競おうとする姿がある。
- ・ 6年生は男子が3人だったので、その3人が元気な感じになった。授業でもいろいろな意見が出て良いと前向きにとらえる児童が多い。統合前は少ない人数でアットホームな雰囲気だったが、集団として「クラス」という感じになった気がする。子ども同士が声をかけあっている姿をよく見るようになった。
- ・ 学校間の壁がなく、みんな仲良くしている。統合当初の不安がなくなり生き生きとした姿が見られる。
- ・ 自分の今の状態を言葉で伝える児童が増えたように思う。困ったときに助けを求めたり、相談したりする児童も増えてきた。
- ・ 少人数だと孤立しがちな児童が大人数になり友だちができたこと。
- ・ 様子を見合っていた子どもたちも、一年を経て少し慣れてきたように思う。3学期はずいぶん落ち着いてきた様子が見られる。
- ・ 1学期は以前の学校の友達と遊んだり、一緒にいたりすることが多いように思ったが、今は入学から同じだったように活動したり遊んだりしているように感じる。
- ・ 集団が大きくなり、自分と会う友だちとして、居心地良く生活している姿が見られる。
- ・ 中竹野、竹野南の児童は竹野小学校の生活にも慣れ、笑顔が多くみられるようになってきた。授業中、挙手して発表する姿も見られる。
- ・ 大勢の集団の中で友だちとのかかわりを学ぶ経験は重要だと思った。大勢の中で自分の考えを発表できた達成感、いろいろな考えがあるということを知ること、集団行動、ルールを知り、守ろうとする力が育つ、適応する力が育つなど。
- ・ 互いにけん制し合っている感じがなくなってきた。良くないと感じたことを注意できる子が増えた。
- ・ 3学期になってとても慣れ、仲良く学習したり遊んだりできているように思う。たくさんの児童と一緒に学び、いろいろな考えに触れる機会ができて学びが深まっていると思う。

2 統合後の課題点について

- ・ 図工のカリキュラムで、南小児童が「去年した。」という単元が3つもあった。するときに

学校統合アンケート(教職員) 令和5年2月実施

なって分かったので、変更が難しくそのまま行ったが、2回目だから良く知ってわかるという反面、新鮮味がなく指導がしにくかった。6年生はこれをさせたいと思いのある単元だったので、変更が難しく、まさか5年生時にしているとは思わなかった。

- ・統合一年目で子ども一人一人のことが十分に分からないまま、そうじ班などを編成した。実際にやってみると班によって活動の差が大きく大変なこともあった。「する自分」という観点からも、子どもたちで動いて進めていくことが理想なので、来年度はもう少し子どもの特徴・特性を見極めてバランスよく編成したい。
- ・バス登校の児童がときどきバス酔いをしていることがある。下校時、バス待ちの児童が図書室で、混雑した状態で宿題をしている。何かいい方法がないか思案中である。
- ・人数が増え、個別に支援を要する児童も増えた。その支援体制が課題である。
- ・基本的な生活習慣の確立（靴揃え、片付けなど）、全体的にあいさつが主体的に出来ていないように思う。
- ・竹野・中竹野・南という言葉でくくるのをいつやめるか気になっている。
- ・中竹野や竹野南も地域や子どもたちの良さを引き出したいと思う。
- ・集会等で感想を聞かれても手が挙がらなかったり、声が小さかったりするの、そこが頑張らせたいところだなと思います。
- ・大きな集団に慣れず、不安感を持つ児童がいる。
- ・竹野南小の児童に、学校生活はどうか尋ねてみると、「やはり南小がいい」という児童がいた。「南小は体育館で上の学年と遊べたから。全校生で遊ぶのが楽しかったから。」ということだった。異学年との交流（縦のつながり）という面では、小規模校の方が多くあったように思う。
- ・自分の考えを周囲に上手に伝えられなくてストレスをためる児童がいること。これまでの環境との違いに対応できていない児童がいること。学年が上がるにつれて環境の違いに戸惑っている。低学年は少人数の生活経験が少なく、自分を出しているように思う。
- ・「〇〇しよう。」と提案する場面を増やしてあげれば、もっと「する自分」を意識する子が出てくるのではないだろうか。特にリーダー育成のために、イベントを企画させたい。

3 その他

- ・学力に課題のある児童に学力保障の時間が十分に取れない。休み時間だけでは足りず、休み時間は遊ばせてやりたい。放課後下校時刻が決まっている。
- ・竹野南小の子は声が小さいと感じる。（集会等）全体の場で前に立って話す声の大きさを意識できればと思う。